

	《問題の答え方トレーニング》……………	4
①	物語 (1)……………	8
②	説明的文章 (1)……………	10
	「が」「は」「の」の使い方……………	12
③	随筆 (1)……………	14
	ことばの変化……………	16
④	詩 (1)……………	18
	文を書く……………	20
⑤	物語 (2)……………	22
	文末の表現……………	24
⑥	説明的文章 (2)……………	26
	強調することば……………	28
	◆新出漢字のまとめ①……………	30
⑦	随筆 (2)……………	32
	熟語の組み立て……………	34
⑧	短歌 (1)……………	36
	文の組み立て……………	38
	……………	40
	……………	42
⑨	物語 (3)……………	44
	送りがなのつけ方……………	46
⑩	説明的文章 (3)……………	48
	絵や図を見て考える……………	50
	◆新出漢字のまとめ②……………	52
⑪	随筆 (3)……………	54
	部首と意味……………	56
⑫	俳句 (1)……………	58
	活用語尾を書き入れる……………	60
⑬	物語 (4)……………	62
	たとえを用いた表現……………	64
⑭	説明的文章 (4)……………	66
	文を書く……………	68
⑮	随筆 (4)……………	70
	誤文訂正……………	72
⑯	物語 (5)……………	74
	主語を変える言い方・文の書きかえ……………	



①⑦	説明的文章 (5)	76
	強調することは	78
①⑧	随筆 (5)	80
	絵や図を見て考える	82
①⑨	詩 (2)	84
	同音異義語・同訓異義語	86
◆	新出漢字のまとめ ③	88
②⑩	物語 (6)	90
	文章の組み立て	92
②①	説明的文章 (6)	94
	ことわざ	96
②②	随筆 (6)	98
	文を書く	100
②③	短歌 (2)	102
	漢字クイズ	104
②④	物語 (7)	106
	活用語の音便を書き入れる	108

②⑤	説明的文章 (7)	110
	助詞	112
②⑥	随筆 (7)	114
	絵や図を見て考える	116
②⑦	俳句 (2)	118
	漢字の読み書き	120
②⑧	物語 (8)	122
	ことばの使い分け	124
②⑨	説明的文章 (8)	126
	敬語	128
③⑩	随筆 (8)	130
	文を書く	132
◆	新出漢字のまとめ ④	134
◆	新出漢字のまとめ ⑤	136
ふろく	漢字の配当表	138

2

説明的文章①

ネコの時間

日高敏隆

学習日
月 / 日

学習のめあて

○ 論点を追いつながら、細部まで読み取りましょう。

読んで考えよう

● ネコは身近な動物ですが、どうもえたいの知れないところがあります。みなさんはネコを見てどんなふうに思いますか。

□ ① 線①「そんな気もしてくる」とありますが、どんな気もしてくるのですか。

□ ② 線②「ネコは気がくるったようにさわぐ」とありますが、どうしてネコはこのようなるまいをするのでしょうか。その理由を考えてみましょう。

□ ①

□ ②

新出漢字

32ページ←

- 論 ロン
- 点
- 暮 ク
- らす
- 存 ソン
- 在
- 従 したが
- う



ことば

- いったい
- たしかに
- いったん

③ 線③「まるで『人がかわった』ようになる」とありますが、本文ではなぜ「人がかわった」の部分にかぎかつが用いられているのですか。その理由を考えてみましょう。

④

④ ネコが食器だななどの高いところにすわりこんでいたりしますが、これはネコにすれば何をしているつもりなのですか。

⑤

⑤ ネコの習性として本文では、どんなことが述べられていますか。書きましょう。

⑥

「じつば」の変化

学習日
月 / 日

「じつば」について学ぼう

◎形の変わることはと形が変わらないことは

例文① 花が さく。

右の例文を、「きのう」ということを付け足して書き直すと、

例文② きノウ 花が さいた。(「さく」に「た」が付く)

となります。また、例文①の意味を「打ち消す」言い方に直すと、

例文③ 花が さかない。(「さく」に「ない」が付く)

となります。同様にして、例文②を「打ち消す」言い方に直すと、

例文④ きノウ 花が さか なかった。

(「さく」に「ない」が付き、さらに、「ない」に「た」が付く)

となります。ここからわかるように、文の意味を変えたり、あとに他のことが付くと形が変わることがあります。ここでは、「さく」や「ない」がその例です。一方、「花が」や「きのう」は形が変わりません。

ことばの形が、意味やあとに付くことばに応じて変わることを、

「活用する」といいます。主語と述語で学んだ基本の文の形である、「何が——どうする」「何が——どんなだ」の「どうする」「どんなだ」にあたることは、「活用する」ことばです。また、例文の「ない」のようなことばも、下に付くことばによって、「活用する」ことばです。

■ 問題で確認してみましょう。

① 次のそれぞれの文の□には、「深い」ということばが入ります。あとのことばにうまくつながるように、「深い」を、必要に応じて形を変えて書きましよう。

□(1) これは、この県で最も□湖だ。

□(2) その湖はそんなに□ない湖です。

□(3) どんなに□うとも、泳げないことはない。

□(4) そのことばには□意味があった。

□(5) これ以上□ば、子どもが泳ぐのは危険です。

□(6) その湖は、想像以上に□た。

② 次のそれぞれの文の——線部のことばを、文の意味にそうようにふさわしい形に直して書きましよう。

□ (1) 自分がその日、どんな生活を(する)①たか、それをいつわりな
く日記に(書く)②ていくつもりだ。

□ (2) おじいさんが(かぶせる)①てくれたあみがさを、おじぞうさん
はたいそう(喜ぶ)②で、夜ふけにお礼の品々を(もつ)③てやっ
てきました。

□ (3) 「もっと腹(はら)に力を入れて(ふんばる)①」と、先生に命令されたが、
もしこれ以上力を(入れる)②ば、ちよつとまずいことになりそ
うで、ぼくは顔が青ざめた。

□ (4) あの、いつも(おだやかだ)①顔をしている先生が、今回のぼく
のいたずらに対しては、それこそ額(あおすじ)に青筋を(立てる)②て、れっ
火のごとくおこったので、みんなおどろいてしまった。

□ (5) 祖父は九十才を過ぎた今も(健康だ)①、毎朝二キロの散歩は欠か
さない。

③ 次のそれぞれの文の()内のことばを、文の意味にそうようにふさわしい形に直して書きましよう。

□ (1) そんなことは、まったく知ら(ない)た。

□ (2) 兄ならきつとうまくやる(だ)う。

□ (3) そんな絵なら美術館に行けば、いくらでも見(られる)ます。

□ (4) 母にそうじの手伝いをさ(せる)られた。

□ (5) どうも先生にしかられ(そうだ)感じがする。

二歩先へ

◎ ふだん、何気なくつかっていることばも、実際に辞書で調べてみると、意外な形をしていることがあります。そういうことに興味を持って、形の変わることば、形の変わらないことばを、少しずつ覚えていきましよう。

新出漢字

32ページ←

- 危 キ
- 青筋 オジ

3

随筆 (1)

言葉を学ぶ

柴田武

学習日
月 / 日

学習のめあて

- 「わたし」の思いをていねいに読み取りましょう。

読んで考えよう

● 眼鏡は度が合ったものだとものがよく見えますが、言葉を覚えることについても眼鏡と同じようなことがいえそうです。

- ① 線①「その時の感じ」とは、どんな感じですか。

同じ段落のことはを用いて書きましょう。

- ② 高崎山のサルの飼育者と、アラビアやアフリカの草原で羊を追っている人の話題を出したのは、「わたし」

がどんなことを述べようとしたためですか。

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

いしば

●すなわち

●また

●そして

●しかし

新出漢字

32ページ

樹 ジュ

木

一枚 マイ

乱 ミダ

れる

姿 すがた

る

姿 すがた

る

3

線② 「言葉を覚えると、今まで見えなかったものが見えるようになる」とありますが、このことについて、「わたし」自身の経験がどのようなものであったか、まとめてみましょう。

Handwriting practice box with four vertical dashed lines.

4

線③ 「それ」は、どんな内容を指していますか。「現実世界」ということばを用いて、まとめてみましょう。

Handwriting practice box with two vertical dashed lines.

熟字訓

学習日
月 / 日

いっしょにひょうじくじを

◎熟字訓とは

熟語としての読みが決まっています、一字一字を分けて読むことができないものを、熟字訓といいます。熟語全体を訓読みしたようなものと考えておけばよいでしょう。

例えば、河原（かわら）、今日（きょう）、友達（ともだち）など、身近な熟語の中にも、熟字訓は少なくありません。

これまで学習してきた熟語の読み方には、

- (1) 音読みに音読みが重なったもの
 - (2) 訓読みに訓読みが重なったもの
 - (3) 音読みに訓読みが重なったもの
 - (4) 訓読みに音読みが重なったもの
- がありました。熟字訓は五番目の熟語の読み方ということになります。

◎熟語の意味のつかみ方

右の(1)～(4)の熟語の場合は、漢字一字一字の意味や熟語の組み立てを考えることで意味をつかめることが多いのですが、熟字訓の場合、熟語全体で一つの意味になるため、文脈に当てはめて意味を考えていく必要があります。

■ 問題で確認してみましょう。

① 次のそれぞれの文の——線部の熟語(熟字訓)の読みを、ひらがなで書きましょう。

□ (1) 明日の昼までにはレポートを提出しなければなりません。

□ (2) 大人になったら飛行機の操縦士になりたい。

□ (3) 昨日から頭がいたくて、まいてっているんだ。

□ (4) デザートとして果物がたくさん出てきた。

□ (5) 美しい景色をながめながら、みんなで弁当を食べる。

□ (6) 今年はさんざんな年だったので、来年に期待したい。

□ (7) 山の中を散策していて、清水のわき出す場所を見つけた。

□ (8) 父はカラオケがとても上手だ。

□ (9) 今年もまた七夕がやってくる。

□ (10) 四月一日は、エイプリルフールである。

□ (11) 家の手伝いをする感心な少年。

□ (12) 誕生日のお祝いに時計を買ってもらおう。

□ (13) 医学博士の学位を得る。

□ (14) 父の将棋は下手の横好きだ。

□ (15) 自分の部屋がないので、図書館で勉強した。

□ (2) 次のそれぞれの文の——線部の熟語(熟字訓)の読みを、ひらがな

で書きましよう。(小学校では習わなくてもよい熟字訓です)

□ (1) 名残おしかったが、友人の家をあとにした。

□ (2) 野良仕事に精を出す。

□ (3) 最寄りの駅は横浜駅です。

□ (4) 時雨にふられて体が冷えた。

□ (5) 兄は意気地がないと、いつも父に言われている。

二歩先へ

◎ 小学校で習う熟字訓だけでなく、小学校で習う漢字を組み合わせでできている熟字訓も、積極的に覚えていきましよう。たとえば、剣道で使う竹刀などは、漢字としてはむずかしいけれど、「しなない」と読むのは知っていないとむずかしいものです。

新出漢字

32・33ページ

- 熟字訓 (ジュク)
- 操縦 (ソウジュウ)
- 散策 (サンサク)
- 誕生日 (タンスン)
- 将棋 (ショウギ)